

＜資料紹介＞高根町箕輪横森前墓地所在の地蔵陽刻板碑

坂 本 美 夫

本板碑は、北巨摩郡高根町箕輪横森前の墓地にある。墓地の入口である南東縁に集められた石仏などの中に、六地蔵陽刻板碑とともに確認されたものである。地蔵陽刻板碑については、これまで須玉川以西に確認された例が無いといわれていた（持田友宏1992『甲斐の板碑』2）が、本板碑のある高根町箕輪横森前はその須玉川以西に位置する地域である。新たな資料として提示したい。

本板碑は、安山岩製である。このため、風化などにより碑全体が摩耗している。また地蔵菩薩の顔は剥落などのためか、輪郭のみが確認できる程度である。大きさは、現状で全長47,8cm、幅が上部23,2cm、中央部26,8cm、下部22,7cm、厚さは14,5cmを測る。全体に丸味をもち、左右の辺は外側に弓状に張り、断面は蒲鉾状を呈する。

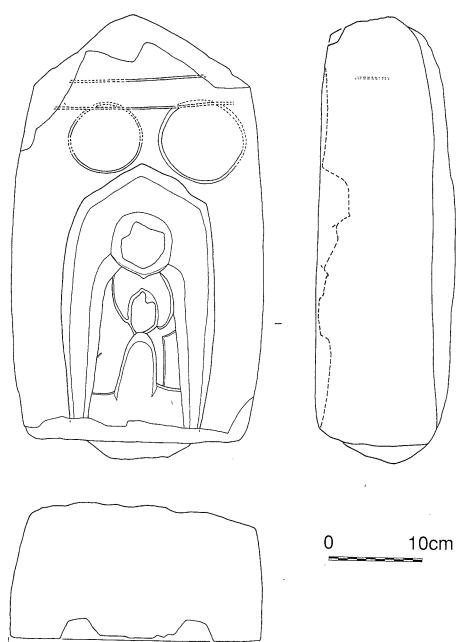
頭部を山形に成形し、その下に二条線を線刻している。二条線は不鮮明な部分が多く、痕跡程度といえるもので、幅1～2mmほどの浅い線刻で描きだされていたものと推測される。なお、側面部においても二条線かと思われる同様な痕跡を認められる部分もある。この二条線の下には、おぼろげながらも直径8cm前後と9cm前後の日輪、月輪を確認できる。この日輪、月輪の下方で、碑のやや上部から下部にかけて高さ29,9cm、幅16,5cm、深さ2,2cmほどの駒形の彫り込み（龕）が設けられており、中に高さ23cmほどの地蔵菩薩立像が半肉彫りされている。この地蔵菩薩像は、不鮮明であるが形態から合掌型に印を結んでいるものと考えられる。袈裟についても袖部の形状が部分的に把握でき、その裾部は横方向の彫りで表現されている。

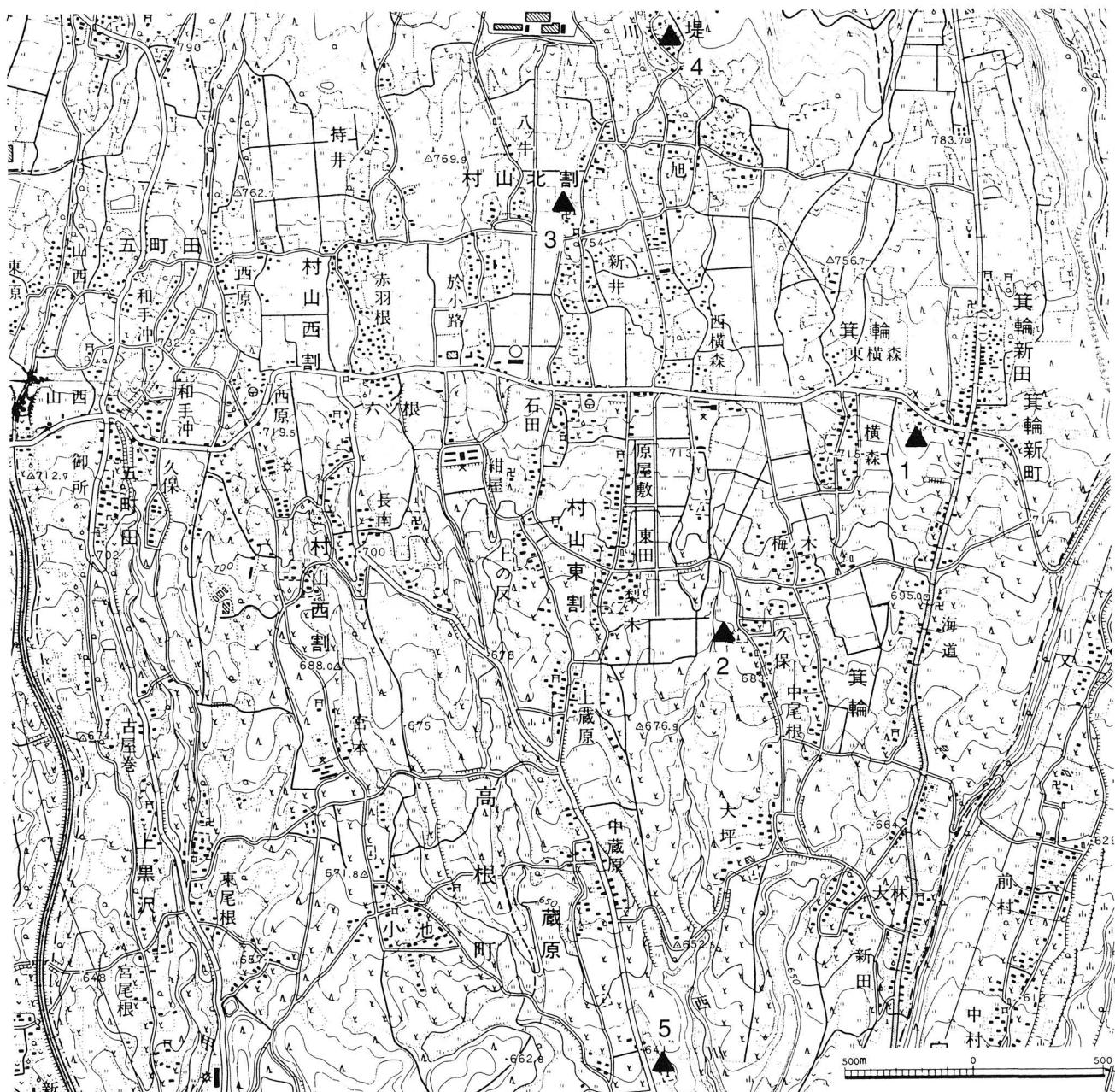
碑の下部には柄が見られるが、大きく欠損ないし摩耗しているものと考えられる。現状で長さ2,1cm、幅11,4cm、厚さ9,4cmの大きさである。なお、台座はみられなかった。

本板碑は、龕の中に前述のような地蔵立像が彫り込まれたものである。これまでに県内で確認されている地蔵陽刻板碑は、およそ19例ほどである。そして記年銘をもつ例は、永正6年（1509）銘の中巨摩郡敷島町久保の道祖神場板碑のみであり、実年代の不明なものがほとんどである。このような中で本板碑を比較してみると、最も良い例が北巨摩郡明野村厚芝にあるおかま地蔵の地下の穴蔵に収められている地蔵陽刻板碑であろう。おかま地蔵の地蔵陽刻板碑より幾分小振りであるが、形態的には瓜二つといえるほど類似性の強いものである。なお、本

板碑には記年銘がなく、造られた時期を明確にできない。しかし先程のおかま地蔵の板碑が15～16世紀のものとされていること（持田前掲書）、また本板碑と久保の道祖神場板碑との地蔵像の表現とに近いものがあり、本例もそのあたりに造られたものとみて大過ないであろう。

本例は、須玉川以西で確認できた地蔵陽刻板碑の一例である。このほかにも高根町地内において地蔵陽刻板碑数例を確認することができた。まず、箕輪久保にある清水家墓地では、二基確認されている。いずれも日月を合せ刻むものであるが、下部を台状に作りだした形態で、これまでのものとやや趣を異にする。八ツ牛にある光林寺墓地には、上部を大きく欠損した一基が、また堤中島家裏にも陽刻地蔵板碑みられる。藏原下蔵原にある鎧堂東の墓地で確認された一基（佐藤勝廣氏教示）は、細みで背が平らに近い仕上がりの形態である。このように、本横森前の例を含め都合6基が確認されたことになる。従って、これらから地蔵陽刻板碑の分布域が、須玉川のさらに西側の地域にまで及ぶことが確認できるのである。





高根町地内陽刻地蔵板碑分布図

1. 横森前墓地 2. 久保清水家墓地 3. 光村寺墓地
 4. 堤中島家裏 5. 鎧堂東墓地